

南富良野高校男子カーリング部

全国大会で第3位

南富良野高校男子カーリング部（獅畑和樹主将・1年、但野憲一君・3年、酒井智紀君・2年、佐々木孝幸君・1年、藤本理君・1年）が北海道代表として出場した、第1回全国高等学校カーリング選手権大会が、3月18日から21日まで青森市で開催されました。

全国5ブロック

（北海道・東北・関東中部・西日本・青森）の代表チームが出場して行われた予選リーグでは、3勝1敗の2位で決勝トーナメントに進出。予選3位の岩手選抜との準決勝では、最終エンドまで4対3とリードする展開でしたが、後攻の岩手選抜に2点を奪われ、4対5で敗れ惜しくも決勝進出を逃した。



ものの、全国で第3位という好成績を挙げました。選手の方々は、週4回という限られた練習時間の中で、猛練習を積んで挑んだ大会でした。顧問の畠山教諭は、「このチームは！2年生が主体なので来年こそ全国優勝を目指したい。」と話していました。

トリノオリンピックカーリング競技に本町から応援に駆けつけた、落合目黒敏子さんからオリンピック観戦記が寄せられましたので、紹介します。

トリノオリンピックを観戦して

14日初戦のロシア戦を見るために、ちょっと緊張気分でカーリング場へ向かった。オリンピックのために作られたピネロロパラギアッチョカーリング場は3,100人収容の美しいアイスリンクだった。軽快な音楽にあわせて既に日本チームも試合前練習を行っていた。実は私のトリノ行きは直前まで決めていなかったの、今日ここに私が来ている事を娘は知らなかった。試合直前に驚かせて動揺を与えてはよくないと思ったので、試合中はなるべく目立たないように隅のほうで観戦していた。リンク上の選手の緊張は観戦している私達にも伝わってきた。見ている私たちの緊張はそれ以上だったかもしれないが、ロシア戦に惜しくも敗れた後、客席から手を振ったら小野寺さんも気が付いて、萌絵と腕で突付きあいながら驚いた顔をしながらもこちらに笑顔で手を振ってくれた。選手とは、ピネロロ滞在中一度も接触することなく、いつも会場で会うのみでお互い手を振って挨拶を交わしていた。

試合が進むにつれ、次第に緊張も緩み落ち着いてプレーできるようになったと思う。負けたデンマーク戦もチームとしては実に見事なショットが続き、勝つ自信へも繋がったと思う。スキップ小野寺さんがチームの信頼に応えて、見事な勝利を収めたカナダ戦の後には、応援団も沸きに沸き、観戦に来ていたNHKの堀尾アナウンサーも興奮気味だった。その後の快進撃は皆さんもテレビ中継でご覧になり、忘れられない一投がたくさんあったと思うが、日本チームの実力を存分に発揮できた試合展開となった。スイスに負け、惜しくも予選敗退となったが、私は十分頑張ったと評価したい。萌絵も含めチーム全員が感じたことは、悔しさよりもやるだけのことはやったという気持ちだったと思う。それも、現地までわざわざ駆けつけ応援してくれた青森の人達（この人達はもちろん選手の身内は1人もいない）、現地に住んでいる日本の人達、故郷で熱狂的に応援してくれた地元の人達、その全てに支えられて得られたものと感じている。「お母さんや皆が応援してくれていることが自分の力になった」と予選9戦終了後、何度となく萌絵が語ったその言葉は社交辞令ではない真実の言葉だったと思う。

私も娘のお陰で本当に得がたい経験をさせてもらい感謝しています。萌絵も桜子もオリンピック出場という貴重な経験を通じ、たくさんの方々の暖かい気持ちに触れたことは自分達の人生の中でも実に大きな宝物になったに違いありません。2人に代わりまして、心から感謝申し上げます。有難うございました。